

新たな発想で未来を創り出し 人と自然が輝くいくさか**活動の経緯**

生坂村は人口約1700人余の小村で、かつては長野県内有数の養蚕地帯だったが、養蚕業の衰退に伴い荒廃桑園が増加したため、平成3年度から大規模な基盤整備によるぶどう（巨峰）団地への転換を図った。併せて農業後継者不足、耕作放棄地の解消を目指して平成7年に生坂村農業公社を設立。現在も公社を中心として農業（ブドウ生産）を核とした様々な商品開発等の地域振興策を促進。

活動の概要

村民が一丸となり、道の駅いくさかの郷の経営の確立を目指し、生産体制、出荷体制、販売体制の確立を図る。



先輩農家による研修生指導



首都圏での販売実践活動

活動の成果、主な実績等

【定住・移住】 全国各地から新規就農者が参入！ブドウ栽培で活躍
平成10年度より、村が営農指導に加え販路開拓まで「稼ぐための指南」を行ったほか、村営住宅の提供や生活資金の保証などを一体的に支援。新規就農・定住者は、それぞれが農業や地域活動の核として村内で活躍。

【女性及び高齢者の活躍】 「母さん」「父さん」たちが頑張る特産品開発
女性の発想と活力を活かし、村内産の梅を使った「梅子の初恋」や豆腐店の廃業を契機とした「手作り豆腐」など、地域資源の再利用や時代の変化に対応した商品開発が特徴。道の駅「いくさかの郷」での直売や加工販売等も地元の母さん、父さんたちの手により行われ、高齢者の生きがいとなっている。

【商品化】 耕作放棄地の解消と農産物の加工販売による特産品開発
耕作放棄地を解消し、農地の有効活用のため、「お父さん頑張る会」などが農地管理や営農を支援。特産のおやきや、豆腐等に加工し「道の駅いくさかの郷」等での販売により、耕作放棄地の有効活用を6次産業化と連携。